

市長と「おしゃべり」

しませんか

市民の皆さんと市長が、より親しみをもって対話するための場「市長と“おしゃべり”しませんか」。市長に若者の声を聞いてもらおうをテーマに、4月26日、中央勤労青少年ホーム「レッツ中央」で開催されました。積極的に市民活動に取り組む若者たちから、活動報告をはじめ、さまざまな質問や意見が出され、休憩時間には青年たちのサークルによるゴスペルも披露。活気に満ちた集まりとなりました。

詳細 市民の声を聞く課 ☎211-2042

個人のパワーが集まって、まちを元気にする！

A

市長から

まずは仲間づくりをして、いろいろなことを知ってほしいと思います。北海道にはNPO法人が400以上ありますし、インターネットでも多くの情報を得られます。自分たちと同じ問題意識を持っている人を見つけたり、法律上の扱いを調べたりして知識を広げてください。市民活動とは、自分を燃焼させること。自分が精一杯やって、それが少しでも人のためになれば、大きな満足になって返ってくるはず。そういう仲間を広げていくことが、まち全体の活性化につながると思います。

Q

若者たちの市民活動に対して「こういうことをやってほしい」という希望はありますか。

Q

市長が二十歳のころは何をしていましたか。

A

市長から

当時は政治が激動していて、学生運動が起きた時代です。どうして学生がそのような運動を起こすのか、もっといろいろな知識を得たいと思って、本を熱心に読んでいましたね。学生同士で話し合いや勉強会もしていましたよ。

A

市長から

政治家になりたいというより、今までの活動の延長のような気持ちかな。弁護士として25年間、環境問題や少年教育の問題などにかかわりましたが、一部の人を救済するだけでなく、より多くの人の幸せとかを実現できる仕事であるならばやってみようと思ったのです。

Q

市民活動を通して政治に関心を持つようになりました。市長はどうして市長になろうと考えたのですか。

A

市長から

札幌にはYOSAKOIや大道芸パフォーマンスなどのイベントがありますが、これらの催しも平和ではないと決して楽しめませんよね。そういう意味でも戦争を知らないわれわれの世代は、平和の大切さを、あらためてひしひしと感じています。機会があるたびに市民の皆さんにも伝えていきたいと思っています。

Q
札幌は平和都市宣言をしていますが、市長からも、ぜひ平和を願うメッセージを市民に発してください。